KSKR パンジーだより　No.88　第三種郵便物認可　通巻第 8620 号　2022 年 2 月 17 日発行

KSKR パンジーだより

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

「私たちのことを私たちぬきで決めないで」

２０２１年。それは津久井やまゆり園で１９人の知的障害者が命を奪われて５年がたった年でした。悲しい事件のあった同じ年に、「知的障害の人のことをもっと知ってほしい。そのために映像で発信したい」の思いを込めて、パンジーメディアは生まれました。

この５年間に、私たちは知的障害者にとって、そして誰にとっても生きやすい社会を創ることができたでしょうか？　残念ですが、答えは「ＮＯ！」です。ますます、ひどくなっているように思います。

しかし、そのような状況の中でも、「元気になること」が２つありました。

ひとつは、宝塚市の人権を考える市民の集いに、当事者４人と講演に行った時のことです。タイトルは「伝えたい私たちの思い～地域で自分らしく　くらす～」で、２時間の講演でした。しめくくりのあいさつが終わったとたんに、障害者の保護者、学校の先生、主催者など様々な人が、直接感想を伝えに来てくれたのです。当事者と支援者、そしてパンジーメディアの映像を使っての講演が、参加者の心にダイレクトに響いたことを実感してうれしくなりました。

津久井やまゆり園事件と同じ時期に活動を始めたパンジーメディア。５年たって、やっと手ごたえを感じ始めました。

そしてもうひとつ。厚生労働省が計画をしているグループホームの再編をストップさせたい、と当事者と支援者が協力をして署名活動を行い、２カ月間でおよそ７万筆の署名を集めることができました。１１月２４日、記者会見を通じて広く世間に発表し、厚労省へ署名を提出したのです。

私たちの予測をはるかに超えて、みなさんの協力を得ることができました。ありがとうございました。これからも、当事者運動の原点である「私たちのことを私たちぬきで決めないで」を大切に、知的障害を持つ人たちの思いや暮らしが実現できるよう、積極的に活動をしていきたいと思います。

（林　淑美）

当事者ぬきに決めないで！

グループホームの再編に反対します！！

２０２１年９月末、厚生労働省が、当事者の声を聞かずにグループホームの再編を進めようとしていることに気づきました。この動きに対して、大阪の１３団体を中心に結成されたのが「グループホームの再編に反対する緊急行動ネットワーク」です。全国からたくさんの署名が集まり、最終的には７万筆を超えました。

１１月２４日、当事者を中心とする代表団が記者会見を行い、厚生労働省に署名を提出しました。代表団がもっとも訴えたいことは、**制度を変える時には、知的障害者の声をしっかりと聞いて、それを反映して欲しい**ということです。

（当初検討されていた見直し案）

・障害支援区分が低い中軽度の人は、訓練を目的としている「経過型」の利用となり、３年などの一定期間を経たら、グループホームで暮らせなくなる。
・障害支援区分が高い重度の人は、グループホームの定員が最大１０名の現在よりも大規模なグループホームで暮らす可能性がある。また、個人を対象にしたヘルパーの利用が制限される。

（現在グループホームで暮らしている人たちの意見）

・グループホームでは、親から自立して世話人に助けてもらいながら自分の望む暮らしができている。
・入所施設の時は、職員に命令をされていた。今は世話人がやさしいので安心して暮らせている。
・一人暮らしの時は、食事はほとんど作らなかった。１人でさみしかった。
・障害者の意見を聞いてください。無理やり一人暮らしをさせるのですか？
・一人暮らしをしたい人には、一人暮らしができるように制度を作ってほしい。そして、重度の人も一人暮らしをしたい人はできるようになってほしい。
・私のグループホームは重度の人も軽度の人も一緒に暮らしています。これからも、その人たちと一緒に暮らしたい。
・これからも、ヘルパーを使えるようにしてください。
・グループホームの人数を多くすると、入所施設のようになります。
・だれとどこでくらすかは、私たちの権利です。

今回の問題について、代表団は、厚生労働省のグループホーム担当者と、1 時間半にわたって話し合いました。熱心な意見交換の中で、厚生労働省の担当者から、「今後も知的障害者の意見を聞く機会を持ちたい」という言葉を引き出すことができました。私たちは、これからも知的障害者の思いを伝える活動を続けていきます。

障害者GH再編に反対

関西の有志が緊急署名

厚生労働省が障害者のグループホーム（GH）に有期限の新類型創設を検討していることについて、関西のGHで暮らす知的障害者らの有志が24日、反対を表明する記者会見を厚労省内で開いた。「GHでは落ち着いて暮らしたい」「GHはあくまでも生活の場だ。訓練の場ではない」と声を上げ、約4万600筆の署名とともに後藤茂之・厚労大臣宛ての要望書を提出した。

通過型GH創設に反対する会見を開いた

新類型は「通過型」と呼ばれるもので、5日の審議会で提示された。専門職を加配して1人暮らしへの移行を支え、退去後も継続して支援するタイプのGHとする案だ。

具体的な入居期限は不明。既存のGHも巻き込んだ再編になりうることから、審議会の委員からは懸念の声が相次いでいた。

要望書は「あえて通過型を設けてGHを訓練の場とするのではなく、どのGHでも希望者が1人暮らしに移行できる仕組みにしてほしい」と主張。再編するにしても、GH利用者の声を聞いて検討してほしいと訴えた。

会見には大阪府内でGHを運営する事業者として林淑美・社会福祉法人創思苑理事長（東大阪市）、山田義昭・社会福祉法人花の会理事長（高槻市）が同席。山田理事長は「通過型の案を9月に聞いて驚いた。放置しておけない」と語った。（福田敏克）

11/30　福祉新聞

講演会

伝えたい私たちの思い
～地域で自分らしく　くらす～

１２月３日、宝塚市が主催する「人権を考える市民のつどい」でパンジーメディアが講演を行いました。テーマは「伝えたい私たちの思い～地域で自分らしく　くらす～」。

第１部では、まず、この５年間で津久井やまゆり園についてパンジーメディアが伝えてきたことをまとめた映像を観てもらいました。そして当事者３人が事件について語ります。中山千秋さんは、事件当時はピープルファーストジャパンの会長でした。事件について仲間とたくさん話し合い、外部に向けても当事者の思いを発信してきました。野村信久さん、有光一仁さんは、自身が入所施設のなかで、職員から虐待を受けています。３人に共通する思いは「津久井やまゆり園だけでなく、すべての入所施設をなくしてほしい」こと。たとえ、入所施設から地域移行しても、施設のなかで受けた傷は残り続ける。地域で暮らすことが当たり前の社会になって欲しいと訴えました。

第２部には、第１部の登壇者に山田浩さんを加えた当事者４人と、パンジーメディア統括の林淑美、エグゼクティブプロデューサーの小川道幸さんが登場です。この日のために再編集した「きぼうのつばさ」、およそ６０分間の映像を使いながら、創思苑が３０年間大切にしてきた事やパンジーメディアについて発表しました。

これまで私たちが積み重ね、目指してきたことが、パンジーメディアの取り組みに集約されています。「知的障害を持つ人への理解を深める」「知的障害を持つ人が自信を持つ」「差別や偏見のない社会をめざす」。３本柱をもとに試行錯誤してきたこの５年間を発表することは、私たちスタッフにとっても、これからの活動を進めていく上で、原点を大切に、目的を見失わない、そう思わせるよい機会となりました。　（福岡　挙）

寄せられた感想の一部を紹介します。

「今日はありがとうございました。知的障害のある当事者の方から直接お話を聞くのは初めての経験で、すごくいい講演をしていただいたと思います。みなさん、自信をもっていろんなところで講演をしていただきたいですね。もっと障害のある人に対する理解を深めていただくためにも。すごくいい講演でしたので、色んな所で広めていっていただきたい」

「今日のお話の中で、自分の事を語って解放されたとありました。それは誰でも、誰もが同じ。私も一度自分のことを、誰にも言わなかったことを開放して解放された経験をしているんですけど、それは誰もが同じだなと感じました」

ワークショップ
恋を育てよう！

セクシュアリティ支援講座の実践編ワークショップ「恋を育てよう」が始まりました。

これまで結婚のイメージを共有したり、２人で暮らすことについて考えたりしてきました。「最近は人との触れ合いが少なくなったよね」と、講師の黒瀬さんの提案で、社交ダンスを踊ったりも！

そして 12 月には２組のカップルが、次なるステージを目指して、いよいよ初デートです。僕（山本）は、何かあったときの助っ人でついていきました。

海が見える場所でデートをしたいとのリクエストがあり、４人で相談して天保山へ行くことになりました。

到着すると、まず向かったのは大観覧車です。１周１５分、２人きりの時間。戻ってきたカップルはニコニコしています。どんな話をしたのかを尋ねると、「それは内緒」とのこと。僕はなんと無粋な質問をしてしまったのだ…。４人は素敵な時間を過ごすことができたようです。

その後は、寿司屋で食事をし、カップルに分かれて好きなところに行きました。樋口さんと中谷さんは、“天保山アニパ”で動物と触れ合ったり、買い物を楽しみました。
天保山アニパでは、１匹のパグが樋口さんの車椅子をペロペロ舐めていて、中谷さんが一言、「樋口さん、焼き鳥のタレでも塗ってるんか？」。２人で大笑い。僕もおもわず吹き出してしまいました。その後、２人は、お揃いの靴下を買っていました。（同じ日に揃いの靴下を履いてきて見せびらかしてました！　めちゃ仲よしです）。

山田さんと冨田さんは、ゲームセンターで遊んだり、ウインドウショッピングを楽しんでから、クレープを食べました。デートといえばクレープです！(僕はそう思います)

デート中は山田さんが積極的に話しかけていて冨田さんも嬉しそうでした。

ですが、せっかちな山田さんは、お店に入っても興味がないとすぐ外に出てしまうので、冨田さんが慌てて付いていく場面がありました。“山田さん、女心をつかむには、それじゃあだめだよ！”と、僕は心の中で突っ込んだのでした。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、帰りの電車の中では、早くも次のデートはどこに行こうかと、みんなワクワクしていました。僕はカップルの邪魔にならないように、次回もついていきます！　　(山本俊作)

各場だより

“変更”なんて怖くない！

パンジー

２０１０年６月、入所施設からパンジーに来たばかりの大川誠さんについて書いた記録に、こんな言葉が多く出て来ます。

「昼食を落ち着いて待つことができない」「視線が合わない」「誘い掛けにあまり興味を示さない」

２５年という長い時間を入所施設で暮らした大川さんは

当時、日常の様々な場面で、行動やコミュニケーションにおいて困難な課題がありました。

そこで支援者と共同して１つのことに取り組んだり、制止するのではなくルールを一緒に確認したりするなど、ゆっくりゆっくり信頼関係を築いてきました。

２０２１年になり、大川さんが大きく変わらないといけない出来事が起こりました。

レジ袋が有料となったのです。昼休みにコンビニで買い物をし、商品を袋に入れる事が大川さんのルーティーンだったのですが…。エコバッグにチャレンジです。

最初はエコバッグを渡すと“なぜこんなバッグがいるのか”といった様子でしたが、次第に自分から壁掛けのバッグを持って買い物に行くようになりました。

これまでは汚れたテーブルを見ると、自分の袖でザーッと拭いていたのですが、誰に言われるでもなく、おしぼりを持ってきてテーブルを拭くように。そのおしぼりを厨房まで片付けに行ったときには、支援者全員が驚きました。

入所施設を出た頃の大川さんの様子を振り返れば、本当に大きな変化です。

ちなみに、大川さんは感覚が過敏で、入所施設では衣服も身につけている事がイヤで裸になってしまう事があったそうですが、今では、なんとマスクもできるようになっています。

経験から得た大川さん本人の自信や意欲は、とても大きな成長をもたらせていると思います。

そして、僕は「ルーティーンだから」「これまでしたことがないから」と、大川さんの可能性を狭めてはいけないと、気を引き締めています。

（北田徹）

心で会話

パンジー

車いすを利用する田中希和さんと出会って１年半が経ちました。

パンジーで働くまで車椅子を介護した経験がなかった僕は、車椅子の押し方や操作の方法を一から教わり、練習しました。少し慣れた頃、近くの公園まで田中さんと一緒に散歩に行きました。歩いて１０分の道のりでしたが、すごくドキドキしたのを覚えています。

また、田中さんは言葉でのコミュニケーションがなく、最初はどんな気持ちかがわかりませんでした。でも、僕が失敗したらニヤッとするし、嫌いな食べ物は絶対に口を開けてくれないし、甘いもんはめちゃ好きやし、気に入らんと薬も吐き出すし、氷川きよしが好きやし、付き合っていくうちにいろんなことがわかってきました。

約２０年前、田中さんは、お母さんが亡くなったのをきっかけに、グループホームの生活をスタ

ートしました。お父さんは、時々会いに来ては、田中さんを笑わせ、年に何回かは、親子で旅行をするのも楽しみの一つだったそうです。

しかし、数年前からお父さんが田中さんを訪ねてこなくなりました。自宅を訪ねてみると、引っ越しをされたようで、誰もいなかったそうです。

それが、去年やっと居場所がわかりました。お父さんは、老人ホームに入所されていたのです。田中さんにそのことを伝えると、嬉しいような、ほっとしたような表情をしていました。

お父さんに会いに行くことになりました。行きの車中、田中さんは少し緊張した様子でした。色んな感情がめぐっていたのだと思います。老人ホームに着いて、受付をすませ、エントランスで待つ事数分。お父さんが現れました。田中さんに話しかけるお父さん。それに大きな口を開けて応える田中さん。田中さんの笑顔を見て、僕もうれしい気持ちになりました。短い時間でしたが、楽しいひと時を過ごすことができました。田中さんに、「またお父さんに会いに行きますか？」と聞くと、大きな目をさらにクリクリッとさせて応えてくれました。（中山祐一）

昔の人に倣う

パンジーⅢ

少し体重が増えすぎた僕たちは、積極的に「玄米大盛り&ウォーキング」を決行することになりました。

きっかけは、食の改善から健康を目指している歯科医の松見哲雄先生の研修です。「現代人は退化病になっている。それには毎日玄米を2合食べる。５０回噛む」と教えてもらいました。しんどいことは嫌いな僕ですが、これならばできそうな気がしました。

当事者も松見先生の研修用ＤＶＤを見て、玄米をたくさん食べること、運動することが大切だと思ったようです。さすがに2合も食べるのはきついので、お茶碗いっぱい山盛りです。

これまでもパンジーⅢでは、ウォーキングを行ってきました。しかし、黙々と軽作業をしている表孝子さん、何度ウォーキングに誘っても目をそらして返事もせず、参加しなかったのです。それが今回、誘いかけた時に、「行くわー」と一言。はじめてウォーキングに参加したのです。汗をかきながら帰ってきて、「歩いてきたよ」と嬉しそうに周りの人たちに話をしていました。達成を味わっているようです。

さらに、山下龍太郎さんも初めてウォーキングに参加することができました。本当は一人で音楽を聴いていたい山下さん、しぶしぶながら必要性を認めて、ウォーキングに出発。そして、みんなと公園を歩き、すがすがしい表情で帰ってきました。

松見先生の研修から約2か月が経ちました。大盛りご飯もウォーキングも続いています。みんなと一緒に僕もがんばります。

（春島海斗）

まるごと魚1匹！

パンジーV

パンジーVの昼食は豪華です。農薬を使わず自分たちで育てた野菜。農家の方に作付けからお願いしている無農薬の玄米ごはん。瀬戸内海でとれた新鮮な魚を市場から直接仕入れます。調味料は地元のお酢や醤油を使っています。

毎朝、調理師の古城さんが、その日の料理に使う野菜を畑から採ったり、みんなで収穫した野菜を厨房にもっていき、お昼ご飯に入れてもらったりしています。だから野菜によりメニューが変わることもしょっちゅうです。（古城さんは畑で採れた菜花の種で、マスタード作りにも挑戦するそう）

魚は、1匹丸ごと出ることも少なくありません。大野公士さんや鎌田裕也さんは、じっくり時間をかけて、きれいに骨を取って食べます。Vに来て4カ月の半山芽吹さんは、最初は魚を食べられませんでしたが、少しずつ食べられるようになってきました。骨も自分で取れるように挑戦中です。

そんな半山さん、ある日、レンコンの炒め物を食べた時「バナナの味がする。バナナ入ってるんですか？」と興味津々。実は本当にバナナをアクセントに使った料理だったのです！

安全な食材と上手な料理の名コンビによる、わくわくする昼食。豪華だけでなくとても贅沢なのです。コロナが収まれば、パンジーVのカフェで地域の人達にも食べてもらいたいです！

ある日の昼食メニュー

玄米ごはん

小松菜の味噌汁

カマスの塩焼き

さつまいものレモン煮

もやしとかいわれ大根の和物

厚揚げとナスの煮物

（萬木一郎）

たくさんの反響がありました

『パンジーだより』87号、巻頭ページ「知的障害を持つ人たちの地域生活は、条件付きなのだろうか？」に、さまざまな人から、たくさんの反響がありました。

・フェイスブックより

知的障害を持つ人たちの地域生活は、条件付きなのだろうか？　に深く考えさせられる。

「そのプロセスそのものに価値があり…」に大きく共感する。

・中学校の校長先生より

閉塞感が蔓延し、受容力のない社会になっていることや、そういう社会で、弱者が生きにくくなっていることなどを感じた。

今度東大阪市と話し合う機会があったら、私も参加したい。

・障害者事業所の方々

・身につまされた。障害者はワクチン接種証明を持ち歩かないといけなくなるのか。

・人ごとではないと感じ、職員で回覧した。地域には本当に理解をしてもらわないといけない。

・津久井やまゆり園事件の事を彷彿とさせるような文章で、非常に危機感を感じる。

・東大阪市として、差別解消や人権の啓発など具体的な動きにつなげていく必要がある。

共に、息苦しさを感じるこの社会を変えていきたいと思います。（吉田）

バックナンバーはこちらで読めます
https://www.soshien.com

書き損じハガキ、（未使用）切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

田中君代　つかなちひろみ　寺野享子（敬称略）

パンジーでは、後援会員を募集しています。

賛助会員　１口　1ヵ月　　５００円　　本会員　　１口　1ヵ月　1,０００円
特別会員　１口　1ヵ月　3,０００円　　郵便振替番号 00950-1-300551　ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ「パンジー」
＜後援会費・寄付金を頂いた方＞　郡嶋美智子　武内冠二　（敬称略）

編集人
東大阪市東鴻池町２－４－８
ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ　TEL:072-963-8818
「パンジー」　FAX:072-963-8825

発行人　関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町２－２
東興ビル４階

ベストセラーの『スマホ脳』を読んだ。人間の脳は、１万年前の狩猟生活から進化しておらず、実はパソコンやスマホから入ってくる大量の情報についていけていないそう。パンジーの松見先生による研修でも、人間の「現代病」についての話があった。玄米ご飯とちょっとのおかずをしっかり噛んで食べる。それが健康に良いそう。人間の脳も体も進化していない・・・過信してはいけないのだと思う。謙虚な１年にしたい。（よし）

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価　１００円

知的障害者へのセクシュアリティ講座から、新しいＤＶＤが生まれました！

知的障害があっても
人を好きになっていい
人を愛していい
いっしょに暮していい

そんな「あたりまえ」を考えます

知的障害を持つ人たちも、私たちと同じように夢や希望を持っています。しかし、周りの人達の許容する範囲の内でしか認められてこなかった歴史があります。性や結婚については、なおさらです。いまだに「寝た子を起こすな」の論理がまかり通っています。

「知的障害があっても、人を好きになっていいんだよ。人を愛していいんだよ。一緒に暮らしていいんだよ」のメッセージを伝えたい。職員にはそんな当事者を、わくわくしながら楽しんで支援してほしいという思いで、セクシュアリティ講座を企画しました。ぜひこの DVD を見ていただき、知的障害を持つ人たちが充実した「生＝性」を生きられる社会をみんなで作っていきましょう！（リーフレットより）

発売･販売元：パンジーメディア ¥1,500（税込）　上映権付 ¥17,600（税込）

（販売開始２月中旬）

ご注文・お問い合わせは、パンジーメディア
https://pansymedia.com
mail　pansy-media@pansy-net.or.jp
TEL　072-968-7151

パンジーメディア